

「私を強くしてくださる方によって」

ピリピ4：13

堀田修一

22・4・3

- I パウロは、人々にも心から祈りを要請し感謝する人だったが、それと共に自分は主にあって満ち足りており、迫害の中でも、常に主によって支えられている事を伝えたいと切望していた。「私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできるのです」：13という力強い言葉には、謙遜の心が込められている。一度聞いただけでは、傲慢のように聞こえるが、良く見ると、主に對する最大限の栄光と賛辞が込められている。この御言葉は、文脈と原語的に「私を強くし続けてくださるお方によって、私は、すべての事に対処することができる」と訳せる。前の節と関係がある。つまり、「私は、私を強くし続けて下さる、力を注入し続けて下さる主によって、あらゆる境遇（困難、苦しみ、貧しさ、迫害、富の誘惑、死を迎える事）に対処できる」という意味。パウロは、自分の力でできると言っていない。すべての事に対処できるのは、力を与えて下さるお方によってという意味。パウロは、「どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました」：11と言っている。初めからそれができたのではない。自己充足の秘訣、環境、周囲の状況に振り回されない秘訣、「いつも（主と主の恵みを）喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことにおいて感謝しなさい（主の恵みを数え感謝する、人にも感謝）」（Iテサロニケ5：16－18）を習得する必要があった。「満足することを学びました」という境地に達するまでの過程→過酷な試練、御言葉の深い理解、個人的な主との出会い、主の素晴らしい模範に従う事が必要だった。そして、その決定的な理由は、本日の13節にある→これまでに発見した最大の秘訣は、「私の中に力を注ぎ続けてくださるお方に強められて、いっさいの事に対処できるようになった事」だと。パウロは常にこの原点に立ち返っている。すべての主張は常にキリストに関する言葉で締めくくられている。キリストはどんな境遇にも、どんな出来事、試練にも取り組むことができる力の源。キリストの生涯は、試練の中でも感謝と神への讚美に満ちている→「ここには五つのパンと2匹の魚しかありません」（マタイ14：17）。「イエスはパンを取り、感謝をささげてから（「神をほめたたえ」マタイ14：19）、…分けてやられた」（ヨハネ6：11）。主の十字架の死が近づいているとき、最後の過越の祝い、聖餐式の制定「イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えられた…また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後…賛美の歌を歌ってからオリブ山へ出かけた」（マタイ26：26－30）。クリスチャン生活とは、単なる道德の教え、知識ではなく、主に結ばれた生き方、主からの力と愛と思慮分別で生きる生き方である。1：6に「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださる」とある。あなたは、神が素晴らしいみわざを始められた対象である。神があなたの内に入って、今、正に働いておられる。神が、私たちの内に働き、私達を通してみわざをなさる。※1974年から2022年の私の人生の奇跡。罪の奴隷から主を証する人生へ。何という恵み、あわれみ！罪と欠点だらけの私が、神に赦され、聖められ、神の栄光のために用いていただい

ている人生！2：12—13も見たい。「恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる」とある。神が御心に従い、私たちの内に働きかけ、志を立てさせ、事を行わせて下さる。もちろん、自分の思いが、神からのものか、自分の勝手な思いかを識別する祈りが常に必要。「神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知るすることができますように」（エペソ1：19）。この「あなたがたが」を「私が」に変えて、自分の祈りとして心から祈り、神の優れた力を知り続ける者でありたい。実に神は「私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方」（3：20）。霊的なぶどうの木である主につながり、留まっている者は、主が十分な命と力を注ぎ込んで下さるので、強められて、いっさいの事に対処できる。私達は、一人で放り出されてはいない。一人で空しく戦い続けているのではない。主ご自身からの素晴らしい力が注がれている。私達はパウロから励まされる。投獄中のパウロ。これまで多くの苦しみを味わい、さまざまな辛さを体験している。迫害され、嘲笑され、非難され、時には同労者により苦しめられ（ピリピ1：15—17）、今や獄中にある。心に疑惑が生じて不思議でないほどの境遇である。それにもかかわらず、「私を強くして下さる方によって、すべての事に耐え抜くことができる」と言う。

- Ⅱ 私達の方がある。神の喜ばれない歩みをし続け、必要な時だけ神の力を求めても与えられない。私達の方は、神の喜ばれない罪、悪から離れ、主に近づき、御言葉と祈りで主としっかり繋がり続ける事。ぶどうの木と枝の様に。霊的な健康と肉体の健康には似た所がある。霊も肉体も神が造られたから。体に悪い物を、食べ続け、体に悪い活動をし続けるなら結果として健康を害する。健康はバランスのある生活、食事、運動の結果である。※証し。霊的な健康も原則は同じ。霊、心に罪、悪いものを入れ続け、罪、悪に近づき、悪、罪の活動をし続けるなら霊的な命と力を与え続けて下さる神との関係は崩れ、霊的な健康を害する。霊的な健康、力をいただく秘訣は、主のもとに行く事。主と共に時を過ごし、主とみことばについて黙想し、主をより深く知り続ける。それがパウロの最大の願い。私達は主と交わり結びつきを保持し、主を知ることの思いを集中する。その他に大切な事＝主が命じられる事、喜ばれる事を主が与えて下さる力により実行する事。聖なる神との関係を壊す有害な罪を避け続ける。自分を駄目にする場所に踏み込まないように祈り主に頼る。信頼できる人に祈ってもらう。健康になりたければ、有害な物を避けなければならない。同じ様に、霊的な健康も、霊的な原則を守り続ける中で与えられる。信仰生活に安易な近道はない。日々、御言葉を読み味わい、罪を悔い改め、十字架の恵みで赦され、御聖霊により聖められ、祈り、日常生活の中で主と共に歩む積み重ねこそ霊的な健康の力への道。これらを実行し続けるなら神は聖なる力を注ぎ込んで下さる。それは霊的な輸血のようである。ここに多量に出血した病人がいるとしよう。命が衰え、息をするのがやっと。この人には、良い血液の輸血が必要。主は、弱さのある私達に対してそのような処置をして下さる。私達は霊的な力が衰え、時として自分の内には霊的な血液が失われてしまったと感じる。しかし、神との交わりにより、主が霊的な血液、命、力を注ぎ込んで下さる。主は私達の状態をすべて知り、何が必要か正しく御存知で、私達に、力と愛と思慮分別、識別力を与えて下さる。※主の力の注ぎの事実の証し。
- ①主日の午前2回の礼拝奉仕のための主の力。

②大切な牧会と神が一つのからだとされた JECA の地区委員長、教会の総会と次の日の地区の講演と説明への主の力と教会の皆の皆さんの祈りの支え。実際に体験しました。主と皆さんに感謝します。皆さん、一人一人にも主の力が注入され続けています。私たちは、主の力を常に必要とする霊的なおさなごです。

応答の賛美聖歌490「我は幼子、我、主にすがらん。小さくあれど、信仰いだきて。絶えず主イエスの手に拠りすがらん、静けき昼も、風吹く夜も」

祈り：私たちの人生には、いろいろな試練、苦しみがあります。私たちは、弱い者です。しかし、私たちの中に住んでおられる主は、私たちを強め、あらゆる境遇に対処する力、識別力を与えて下さる恵みを心から感謝します。